

6/17 住民意見交換会（於：港南コミセン）での主なやりとり概要

- ①電力は足りていると思うが、その中でなぜ洋上風力発電を立てなければならないのか。②洋上風力の電気は地元で使う電力になるのか。③原発と同様、健康被害や環境被害が後回しにされているのではないか。④沿岸からの離岸距離、本数はどのくらいか。⑤漁業への対応はどうか。⑥撤去についての考え方、以上について教えて欲しい。
- （県）①結論から言えば足りていると思う。ただ、現在主力電源である火力の燃料である天然ガスの調達のコストがかかっていることや今後の CO2 排出抑制を考えると電源構成における再エネ比率を上げていく必要がある。国は再生可能エネルギーの主軸は洋上風力ということで、取組みを進めている。
- ②地元で電気を使えるかはこれからの議論になるが、遊佐町では意見とりまとめの将来像の中で、遊佐町沖で生まれた電力を地産地消することを盛り込んでおり、選定事業者はそれをしっかり実行しなければならない。市民の意見であれば、酒田市とも話をして意見とりまとめの中に盛り込んでいく。
- ③離岸距離について、例えば遊佐町沖の議論では国定公園や景観の問題、風車の渦集効果により内水面魚種の稚魚が捕食される可能性などを考慮し、海岸線から 1,852m 離すという形になっている。酒田市との議論で今後検討していくことになる。基数については 50.4 万 kW を上限に、海底条件や環境影響など、様々な条件を議論していった結果決まるもので現段階では申し上げられない。
- ⑤漁業への影響は当然あるので、洋上風力を導入する前提として遊佐町では協調策や振興策をしっかりとまとめているほか、漁業影響調査の考え方も意見取りまとめにおいて明らかにしている。
- ⑥撤去については事業者の責任で行ってもらうことになる。遊佐町の公募占用指針においては、撤去まで含めた費用を確保するほか、倒産したとしても対応できるよう、厳しく審査されることになる。
- （市・①の補足）市で運営している十里塚風力発電所では、過去 1 年間に出力抑制で実際に止まっていた時間はほとんどなかった（0.18%）。また、冬の間は太陽光の発電量が伸び悩む一方、日本海側の冬の風力発電は発電量が大きくなるため、一概に無駄になるとは言えないと思う。
- ①台風や地震、津波へ対応できる構造となっているのか。②風力発電による健康被害について、シミュレーションソフトの結果では睡眠障害が 1 万人になるような予測があるが、どのくらい考慮しているか。

→ (県) ①国の所管になるが、電気事業法に基づく技術基準に従って、地震や台風の荷重に耐えられるような安全上の基準をクリアする必要がある。具体的には 500 年に一度の地震、50 年に一度の台風にしっかり耐えられるものでなければならないとの回答だった。

②シミュレーションソフトについては承知している。風や波など様々な条件がないという前提の下のシミュレーションであり、一つの考え方としてはあるものの、しっかり検証がなされていないというのが国の見解。環境省の平成 29 年度の基準に従って対応していなければならないと考えている。遊佐町沖の協議会意見とりまとめにおいても、環境配慮事項の部分で超低周波音等の影響について、地域住民に対して丁寧な説明周知を行うことを事業者に求めており、しっかり対応がなされるよう見ていかなければならない。

○ ①小学 2 年生の子供がおり、地域に誇りを持ってもらいたく、海など自然に関わる活動に多く参加しているが、洋上風力の関係かわからないが海岸について立ち入り禁止区域が増えたと感じる。また、②雇用を創出できるとのことだが、未来の世代がこの仕事に魅力を感じてくれるか、地元にとどまる若者がどれくらいいるか不安。

→ (市) ①最近 SOLAS 条約の関係でテロ対策として一般の方の立ち入りを制限している状況がある。また、工事が始まれば当然立ち入り制限はかかる。②仕事の選択肢がないということで、女性中心に県外に流出するという課題があるが、仕事のために酒田に住み続けてもらうため、仕事の選択肢を考える必要がある。エネルギーの関連産業は大変重要かつ成長性があるものと捉えているが、それだけではなく、起業する人材の育成なども含め、地域振興策として提案いただきたいと考えている。

○ 鳥海山や日本海に沈む夕日など、景観に特別な思いを持っている人は多い。巨大風車が林立する風景は想像できない。ところで、6 年前に県において庄内の約 20 か所から 4 つの時間帯でフォトモンタージュを作成しているが、一切公開されていない。遊佐町民の公開請求に対しては「開示することに混乱が生じる恐れがある」ということで公開できないとのことだった。どんな衝撃的な画像になっているのか、心配がある。これらを全て公開することを強く願う。

→ (県) 景観については難しい議論で様々な意見があると思う。頂いた意見や、違った角度からも意見を十分議論していく必要があると受け止める。フォトモンタージュの件については意見として伺い、確認の上何らかの形で回答する (6/28 公開済)。

- 洋上風力発電をやるとバラ色の未来になるという話が出たので、想定していた会と少し違った。①巨大な洋上風力を沿岸近くに建てるという例はほとんどない。日本だけそれを行うというのがすごく疑問。それより小規模な自宅への再エネ導入の補助なども含めて進めていくべき。②また、大規模な送電線を引く事業も始まっており、地産地消に本当に貢献するのか。③また、あらゆる問題には事業者が対応するとのことだが、例えば健康被害が出た時にどうするのかなど、具体的に説明して欲しい。

→ (県) ①離岸距離については、日本は比較的近いところで一気に深くなるという海底地形であり、ヨーロッパなどとは建設可能な海底地形の違いがある。また、先行利用者である漁業者との調整を進める上で、利用者を特定しやすいよう、沿岸に近い共同漁業権区域を選定している。諸外国の例では、比較的近いところでの建設が進んでいる例もあり、運転開始前だが、台湾では5km程度の例もある。

②エネルギー地産地消については、県としても蓄電池などの補助も実施している。カーボンニュートラルに向け、国としても2030年を目標に再エネ導入を急いでいるので、エネルギーの地産地消という視点と、再エネの開発の加速ということで大規模な洋上風力の必要性を話しているところ。

③健康への懸念であるが、遊佐町沖の例では、環境配慮事項として超低周波音をはじめとした影響への不安の声に対して必要な措置を検討するよう事業者に求めている。

- ①固定資産税はどのくらいになるのか。②また、健康被害については不安をもっており、近隣の方で不眠という方も聞いた。健康被害を確認しているか。③ジオパークとの関連で、自然と風車との共生についてジオパークの理念と合うのか理解ができないので説明して欲しい。

→ (市) ①23基を建てる想定で、1基あたり83億円で試算すると1,913億円が取得額ベースとなり、20年で160億円となる。増えた分だけ地方交付税で引かれるが、実入りとしては40億円、年間2億円の増収となる。使い方については、現時点では想定していないが、市の一般財源となるため、酒田市の地域振興や地域づくりに使える財源となる。

②市の十里塚風力発電所の例では、最寄りの住宅が650mのところにある。複数の地域の方と話す機会はあるが、耳を澄ませば聞こえるという方もいるようだ。ただ、今の段階で健康被害を訴える方はいないと認識している。

→ (県) 遊佐町役場にも騒音の状況について聞いたところ、陸上風力を立てたときに電波障害や音が聞こえるという話はあったが、最近はそういう話はないとのことだった。

③ジオパークについては、事務局に確認したところ、端的に言えば洋上風力を含めてジオパークなんだという見解であり、矛盾しないという話を頂戴している。

○ ①海や山の自然を壊さないで風車を建てられるのか。②撤去はどうなるのか。

→ (県) ①建設の影響はどうしても出るので、漁業への影響を同時並行的に調査しながら、なるべく環境への負担が生じないような形で進めていくことが最低の条件となっている。

②20 年の売電期間が終了後、基本的に撤去することになっているが、例外として漁礁効果を期待する場合など基礎の部分を残すことはある。

(更問) 金儲けのために自然を壊すのであれば、藻場の保全など、環境に負荷をかけない他の手段もあると思う。

→ (県) 事業者の採算最優先という話があっていいわけではない。事業者任せ、国任せではなく我が事として取り組んだうえで、それでも足らざる部分をどうしていくかという議論が大事。酒田市とも意見交換を重ねていく。

○ 設備利用率の基準はあるのか。

→ (県) 遊佐町の場合は 39.3%で見ている。酒田市も風況的には同じなので、30%を下回ることはないと個人的には考えている。

→ (更問) 365 日の 3 割分しか発電しないというのは、環境破壊してまでやるには割が合わないと思う。実際に稼働する風力発電で、施設の計画段階と実績の設備利用率についてデータは持ち合わせているか。

→ (県) 県では持ち合わせていない。

(市) 市の十里塚風力発電所では、23%で計画していたが、実績値は 32.7%であった。

以上